2025_0612「森のカタツムリ（写真）」日々の理科 3962 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

カタツムリ（マイマイ）の仲間は、軟体動物（門）の動物の中では、子どもの生活や遊びに最も身近なものでしょう。特に探さなくてもそこらじゅうで見かけるし、動きも緩慢なので素手で簡単に捕獲できます。餌も野菜クズで十分で、うまく育てると産卵も見られます。童謡に唄われていることも、親しみやすい理由の一つでしょう。私も子どもの時、「学研の科学」に触発されて、カタツムリを卵から育てて自由研究をした記憶があります。

あまりにも当たり前に見かける動物なので、今まで（たぶん）一回も写真に撮ったことがありませんでした。先日、大磯丘陵に行った時は、前日の雨で林床も倒木も湿っていたので、カタツムリがたくさん活動していました。「活動している」といっても、ただノコノコ歩いているだけにしか見えませんでした。薄暗い森の中だったので、ちょっと撮影が難しかったですが、チョウに比べて動きが超緩慢なので、スローシャッターでもブレずに写ってくれました。

殻に３本の模様があるので、種類は「ミスジマイマイ」・・・だと思います。しかし、亜種やら近縁種が多いらしく、「ちがうッ！」と言われるとヤなので、「森のカタツムリ」と無難な題名にしておきました。

（2025 年 6 月上旬／神奈川県大磯丘陵）